

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおよそ計画通り C...計画以下
評価基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価委員会の評価コメント, 評価. Rows include categories like 'I. 確かな学力の向上を図る', 'II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐくむ', 'III. 高い志をほぐくみ、進路実現をめざす', 'IV. 教員の指導力向上をめざす', 'V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する'.

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								昨年度から共通テストの得点率平均は下がったものの、全国的に平均点が下がる中、その下げ幅が5ポイント程度で留まっていることは評価できる。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	96.90%	97%	97.80%	生徒数312名 受験者数305名	A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率の平均	81.30%	82%	76.10%	900点満点 平均684.8点	A	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	8件	5件	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・プリマーテス研究会 1 ・日本金属学会2021年講演大会 第6回「高校生・高専学生ポスター発表」1 ・第24回化学工学会学生発表会 1 ・天文学会ジュニアセッション 2 ・神戸大学高校生のためのシンポジウム 1 ・プラスマ核融合学会 1 ・関西学院大学 大学生の建築作品展 4 ・化学工学会 1 ・第62回日本動物園水族館教育研究会 1 	A	継続	学会等での発表本数は、目標値及び昨年度実績を上回った。また発表分野も多岐にわたり、課題研究の深化が伺える。引き続き、期待したい。	AA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①9人 ②2人	①5人 ②5人	①3人 ②2人	<ul style="list-style-type: none"> ①化学グランプリ近畿支部支部長賞 1人 ②物理オリンピック銅賞 1人 ③物理オリンピック日本大会金賞 1人 ④物理オリンピックアジア大会入賞 1人 ⑤化学オリンピック銅賞 1人 	B	充実				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験の受験 ①受験者数 ②取得スコア（級） (1)英検2級以上相当 (2)英検準1級相当	①61 ②(1)27 (2)17	①50 ②(1)25 (2)15	①56 ②(1)27 (2)12		A	継続	大多数の生徒が、英検2級相当であるCEFR段階のB1の英語力を有する中、英語外部検定試験の受験について、より高いレベルでの受験を促すなどの工夫を検討していただきたい。	C		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	268人	250人	217人		A	継続	難関国立大学合格者、現役国立大学進学者は昨年度実績から上回り大変評価できる。共通テストの平均点が下がった中、生徒の高い志と粘り強さ、教員の絶え間ない学習支援がこの結果につながっているのではないかと、引き続き、さらなる飛躍を期待する。	AAA		
		㉒進学実績	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	163人	170人	169人		A	継続				
		㉓国立大学への進学	国立大学現役進学者数	185人	180人	199人		A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	0人		B	継続				
	総合評価			生徒の集中力に負けない授業づくりをめざし、教員の指導力向上の取組みを進めていることが、卓越した進学実績につながっている。今後は広範な領域で活躍する卒業生とのネットワークを強化し、外部講師などの立場から刺激を受けるなどの取組みを行うことで、生徒の視野をさらに広げていただきたい。今後も全国公立高校のモデルとしての取組みを期待したい。							AA		

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																	コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目(はぐくみたい力) ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	課題研究成果発表会の実施(豊高プレゼンテーション)	校内成果発表会の発表件数	理科口頭発表57本 文科口頭発表34本 能勢分校口頭発表3本 1年94本	理科口頭発表55本 文科口頭発表35本 能勢分校口頭発表3本 1年90本	理科口頭発表54本 文科口頭発表35本 能勢分校口頭発表4本 1年92本	「豊高プレゼンテーション」における課題研究の口頭発表	A	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	85%	85%	86%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	A	継続	デイバート活動の増加は評価したい。これまでの取組にとらわれず、常に新たなチャレンジを通して、高い英語運用能力が育まれることを期待したい。また、土曜講習の参加者も大幅に増加していることから、生徒の意欲の高さと教員の指導体制の充実が伺える。	A
			継続	各種コンテスト及び英語即興型ディベート活動への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿(西日本)等地方大会参加数 ③ディベート活動参加回数	①12回 ②7回 ③96回	①10回 ②5回 ③100回	①11回 ②7回 ③120回	①SSH生徒発表発表会1組 JICA「国際協力作文コンクール」390名 国際会議 10th International Conference on Mathematical Modeling in Physical Sciences, September 6-9, 2021, onlineにて口頭発表 電子情報通達学会 安全・安心な生活とICT研究会にて口頭発表 令和3年度電気学会U-21学生発表発表会 全国高校生フォーラム WWL 国際会議 テクノ/2021 高校の部 日本情報オリンピック WWL・SGHX探究甲子園2022 2組 ②大阪サイエンスフェスティバル 第一部、第二部 科学の甲子園 4位 生徒生物研究発表会 GLHS全国研究発表会 大阪教育大学作文コンクール 大阪教育大学 教師にまっすぐ ③ディベートセミナー15回 ディベート体験9回 ディベートチーム 96回	A	英語運用能力に自信がつけたと回答した参加生徒の割合	93%	93%	93%	即興型ディベートが終了後にアンケートを実施	A	継続		
			継続	英語リスニングセミナー	講習参加者数	269名	300名	392名	土曜講習参加者	A	英語運用能力に自信がつけたと回答した参加生徒の割合	92%	92%	93%	講習終了後にアンケート実施	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目(はぐくみたい力) ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	海外フィールドワークの実施	参加者数	33名	35名	53名	夏に国内留学プログラムを実施。SSH,WWLで年度末に予定していた海外研修(シンガポール、ベトナム)は中止予定→代替案となる行事を計画 SSH+東京研修 19名(中止) WWL:国内留学研修 38名 Thinking Strategy Program 16名	A	参加を通して、異文化の人とコミュニケーションをとったり、意見を発表したりする力が高まったと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続	海外研修の代替プログラムの充実が参加生徒数やアンケート結果に実績として表れている。今後も、学校内外の資源を活用した取組に期待する。	A
			継続	大阪大学の留学生との交流会の実施	参加者数	1年生360名	1年生360名	1年生360名	1月14日大阪大学の留学生との交流会をオンラインにて実施	A	異文化について理解を深めることができたことと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	グループで調査してきた内容を英語で発表できた生徒の割合	A	継続		
			継続	地域交流活動ボランティア活動の推進	活動人数	2年生全員	2年生全員	2年生全員	地域交流活動がコロナのため実施できず、修学旅行中でのフィールドワークを実施	A	ボランティア活動に参加した生徒のループリック評価	90%	90%	95%	「志学」に対するアンケートでの肯定的回答率	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目(はぐくみたい力) ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	土曜セミナー等の実施	イノベーションセミナー(6回) 英語ディベートセミナー等の合計実施回数	6回	10回	20回	イノベーションセミナー5回 英語ディベートセミナー15回	A	授業以外の体験ができた・学びに対する意欲が増したと回答した参加生徒の割合(新規)	88%	90%	ディベート92%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続	土曜セミナー、講演会の実績が昨年度から大幅に増加しており、生徒の満足度も非常に高く、大変評価できる。高い志を維持・向上させていくための教員全体の働きかけがこの結果につながったのではないかと、引き続き、回数もさることながら、その内容についても絶えず研究し、さらなる充実に向けて努力してほしい。	A
			充実	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	33回	35回	53回	京大講演会1回(47名) 京大見学会2回(62名) 阪大講演会2回 課題研究・グループ別講演会:33回 (Zoom・対面にて各グループで実施) WWL講演会1回 探究ガイダンス14回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	95%	95%	98%	進路講演会、WWL講演会の肯定的回答率	A	継続		
			継続	授業以外の体験ができた・学びに対する意欲が増したと回答した参加生徒の割合(新規)	88%	90%	ディベート92%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続									
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	充実	①教科の垣根を超えた相互の授業見学 ②授業改善に向けた教員研修の実施	①研究授業の実施回数 ②校内での教員研修の回数	①8回 ②6回	①10回 ②6回	①10回 ②9回	①公開授業大会 6回 初任者授業公開 2回 ICT活用授業公開 1回 教育C研究Forum 1回 ②公開授業大会 7回 端末に係る研修 2回	A	学校教育自己診断における項目の肯定的評価の割合	①89% ②89% ③92%	①90% ②90% ③92%	①94% ②93% ③93%	①授業内容は自分の学習や発達に役立っている ②教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある ③授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある	A	継続	公開授業や教員研修の充実は大変評価できる。研修での取組みの成果が高い生徒の授業評価にもつながっており、継続して校内研修等の充実に取り組みたい。また、ICTの教育効果の展開に積極的かつ意欲的に取り組む姿勢を評価したい。	AA
			充実	課題研究における評価方法の検討	・評価のループリック検討会議の回数を年間に2回実施	8回	5回	12回	課題研究委員会(文理共通)を立ち上げ定期的に会議を実施。	A	ループリック作成を通じて指導力が向上したと答える教員の割合	100%	100%	100%	課題研究委員会に参加した教員アンケートの肯定的回答率	A	充実		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	新規	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを視聴、視聴した学校数及び生徒数 ②他校科学系部活動との交流回数	①実施回数、参加人数 ②実施回数	-	①3校10名 ②5回	①3校13名 ②0回	①7月20日公開授業大会1校5名 2月9日豊高プレゼン2校8名 ②豊中市理科展、刀根山高校との交流を計画していたが新型コロナウイルスのため実施できず	-	参加満足度(4段階)	-	-	①3.5	-	-	-	継続	自校の公開授業への他校教員の参加数は随一。他校教員のニーズを的確に捉え、地域の拠点校としての役割を果たしており、大変評価できる。
新規			教員研修への参加教員数	参加人数	-	10名	49名	7月20日実施公開授業大会への参加:42名 10月20日課題研究中間発表会への参加:4名 2月9日豊高プレゼンへの参加:3名	-	参加満足度(4段階)	-	-	3.3	-	-	-	継続		

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学共通テストの得点率は下がったものの、5教科7科目受験者の割合は昨年度より増加している。また、学力調査による学力の伸長も昨年度に比べ、特に2年生から3年生での伸長が顕著に伺え、評価できる。	AA
		⑭大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	85.0%	85.0%	88.7%		A	継続			
		⑮大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における 得点率80%以上の者の割合	11.6%	12.0%	3.0%		C	継続			
	VII. 課題研究活動	⑯課題研究活動	学生TAによるルーブリック評価	3.6	3.6	3.6		B	継続	実績としては昨年度と同様であるが、新たな探究ガイダンスにおける大学教員の講演等の活動は、1年生の課題研究スタート時の動機づけにつながり、効果的であるため、評価できる。	B	
		⑰コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	全国レベル 7グループ	全国レベル 7グループ	全国レベル 7グループ	JICA「国際協力作文コンクール」特別学校賞、大教大作文コンクール佳作、国際会議（10th International Conference on Mathematical Modeling in Physical Sciences）参加賞、令和3年度電気学会U-21学生研究発表会佳作、テクノ愛2021高校の部健闘賞、教師にまっすぐ小論文優秀賞、日本情報オリンピック取組賞	B	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験	CEFR B1レベルの生徒数	1年：14名 2年：12名 3年：71名	1年：10名 2年：15名 3年：50名	1年：10名 2年：15名 3年：91名		A	継続	3年生のCEFR B1レベルの生徒数が大幅に向上している。その要因について分析するとともに継続して高い水準を維持されたい。	AA	
	IX. 進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	96名	100名	103名		A	継続	進路希望達成率は下がったものの、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は目標値及び昨年度実績を上回り、実績は徐々に向上している。	A	
		⑳進学実績	進路希望達成率 （年度当初の進路希望達成率）	27.8%	25.0%	25.2%		A	継続			
		㉑国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	130名	130名	134名		A	継続			
		㉒海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	1名		A	継続			
	総合評価			コロナ禍においても、「教育活動の充実」、「組織運営の円滑な推進」、「教員の育成」において、成果を挙げた。特に、ICTを使った授業について、積極的かつ意欲的に取り組む姿勢を評価したい。また、地域拠点の取組みについて、多くの学校を巻き込んだ取組みを実施しており、本取組みのさらなる充実に期待したい。							A	

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA…きわめて高い成果をあげている AA…高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力 <small>小項目(はぐくみたい力) ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	7回 / 講座	6回 / 講座	7回 / 講座	目標を達成した	B	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	80%	80%	83%	目標を達成した	B	継続	A	コロナ禍の影響もあり、言語活動を育成する取組みが思うようにできなかったのではないかと。今後は、これまで取組みを土台にして、図書館と授業、ICTとディベートなど、新たな価値同士を掛け合わせるなどの取組みにも期待したい。	
			継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A: 「保健」の授業でのプレゼンテーション B: 「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A: 1回 / 生徒 B: 4回	A: 1回 / 生徒 B: 10回	A: 1回 / 生徒 B: 4回	A: 1年「保健」の授業ではプレゼンテーションを実施、2年「保健」においては、健康の分野でディベートを実施、それぞれの中で最低1回は発言する機会を持たせた。 B: 感染予防の観点から回数を減らして実施した	【アンケートによる生徒の評価】 A: 授業を通じて自らの成長を実感できた B: 1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	B	A: 96% B: 97%	90%	92%	A: 1年85% 2年92% B: 100% 目標を達成した	B	継続			
			再編	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書読書の充実	図書館の開館日数の確保	183日	210日	194日	複数回の臨時休業もあった中で、感染予防に努めながら可能な限り開館した。	A: 生徒に対する図書館蔵書の貸出冊数 B: 1、2年生生徒一人あたりの読書冊数	B	A: 2109冊 B: 新規	A: 3000冊 B: 15冊 / 1人	A: 2117冊 B: 9.2冊 / 1人	新型コロナウィルス感染拡大のため図書館の開館日数が十分確保できなかったことが影響し、目標が達成できなかった。	C	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④共感力・違いを認め共に生きる力 <small>小項目(はぐくみたい力) ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他</small>	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様性受容の取組み	(生徒主体の人権行事に係る) 生徒人権委員会の実施回数	12回 / 2年 (1、3年の人権行事は中止)	年5回	6回 / 3年 14回 / 2年 2回 / 1年	3年「ライフワークバランスとジェンダーについて考える」 2年「環境問題と人権」 1年「SNS講習会」	【アンケートによる生徒の評価】 さまざまな取組みを通じて、深く自国や自分自身を見つめ直し、広い視野をもって積極的に他者に関わろうとする姿勢をはぐくむことができた	B	2年: 87% (1、3年の人権行事は中止)	90%	97%	3年: 97% 2年: 96% 1年: 98% 目標を大きく上回った	A	継続	A	生徒主体の行事の企画運営は茨木高校の強み。昨年度より行事の取組み回数は増えていることは評価できる。今後も生徒同士の化学反応により、大学や社会で活躍する資質や能力を持った人材を育成してもらいたい。	
			継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	実施回数	77回	50回	84回	生徒議会: 29回 その他の委員会: 55回 目標を大きく上回った	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組みは充実したもになっている	A	文化祭 91% (体育祭は中止)	90%	95%	文化祭: 95% 体育祭: 95% 目標を大きく上回った	A	継続			
			再編	リーダー研修Ⅲ(クラブサポート事業)の実施	A: 実施回数 B: 参加クラブ数	A: 8回 B: 新規	A: 5回 B: 10	A: 3回 B: 6	年間5回を予定していたが、5月・9月は新型コロナウィルス感染拡大の影響で中止となった。熱中症予防講習会には全クラブ等(43)の代表者と体育祭各団総長が参加した。	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	B	98%	90%	100%	目標を大きく上回った	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志・規範意識をはぐくむ <small>小項目(はぐくみたい力) ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	継続	リーダー研修Ⅰ(リーダーとしての資質の獲得)の実施	実施回数	11回	10回	11回	目標を達成した	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	98%	90%	100%	目標を大きく上回った	A	継続	AA	コロナ禍の影響を受け、思うように取組みを実施できなかったが、学問発見講座の取組み回数やアンケート結果は目標値を上回り、生徒の琴線に触れる機会を提供できている。今後のさらなる充実に期待する。	
			継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	13	50	15	新型コロナウィルス感染防止の観点から制約がある中で工夫し、実施可能なものについては、積極的に取り組んだ。	-	生徒ののべ参加人数	174名	1000名	323名	新型コロナウィルス感染防止の観点から制約がある中で工夫し、実施可能なものについては、積極的に取り組んだ。	-	継続			
			継続	学問発見講座・卒業生講座	実施講座数・実施回数	22講座 / 年1回 (学問発見講座は中止)	20講座 / 年2回	24講座 / 年2回	学問発見講座: 14講座 卒業生講座: 10講座	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった。	A	97% (卒業生講座)	90%	96%	学問発見講座: 96% 卒業生講座: 96% 目標を大きく上回った	A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩最先端の学びの研究 <small>小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他</small>	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組み	A: 大学等と連携した取組みの回数 B: 教科・科目の研究会等への参加回数	A: 58回 B: 24回	A: 20回 B: 50回	A: 64回 B: 31回	A: 大きく目標を上回った B: コロナ禍の中、参加可能なものについては積極的に参加した	B	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	89%	85%	91%	目標を大きく上回った	A	継続	A	パティシステムを介した教員力、授業力の向上への取組みは評価できる。また、今年再編した教員力向上の取組みについては、数値としての成果はあがっているため、常に内容を検証し、改善に努めてもらいたい。	
			再編	パティシステムを用いた互見授業(グループウェアソフトの利用を含む)の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	新規	2.0回 / 人	3.9回 / 人	目標を大きく上回った	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業は信頼できるので、来年もこの先生の授業を受けたい(後輩に受けさせたい)	93%	89%	95%	目標を大きく上回った	A	継続			
			再編	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究意見交換の実施	実施回数	新規	20回	47回	目標を大きく上回った	A	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究意見交換に参加した教員ののべ人数	新規	150名	67名	グループウェアソフトでの授業研究意見交換は積極的に参加できたが、研究授業の参観については「密」を避けるため十分に実施できなかった。	-	継続			
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	課題研究発表会(オンライン開催を含む)への招待回数	実施回数	-	2回	2回	令和4年2月1日(火)、同2月10日(木)	-	参加満足度(4段階)	-	-	-	-	-	-	継続	B	茨木高校がこれまで積み上げてきた探究活動のノウハウとその効果を、次年度さらに他校に普及してもらいたい。まずは今年度の他校の教員を招いた課題研究の授業見学について、引き続き取組み、他校への普及の規模を広げていただきたい。
			新規	課題研究の授業見学及び課題研究発表会(オンライン開催を含む)に参加した教員数	実施回数	-	5名	1名	令和4年2月10日(木)1名参加	-	参加満足度(4段階)	-	-	-	-	-	-	継続		

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テストの5教科7科目受験者の割合は目標値を上回ったが、若干ではあるものの昨年度実績を下回っており、その原因を分析し、さらなる向上を期待する。また学力調査の結果において、1年生から2年生の数値がやや後退している。その原因についても分析されたい。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	92%	85%	88%	目標を達成した	B	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の平均得点率	78%	74%	69%	目標に近い数値を達成した	B	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	多様なテーマを扱う生徒の課題研究	24講座	22講座	24講座	目標を達成した	B	継続	コンクール・コンテスト等の入賞者数は目標値は下回ったが、昨年度同様の実績を残した。今後は、校内の課題研究活動のさらなる充実のため、さまざまなコンテスト等にチャレンジし、より多くの生徒に校外での発表を経験していただきたい。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国essay contest等の入賞者数	3名	5名	3名	全国essay contestの入賞者2名 出光興産「環境フォトコンテスト」1名	B	継続			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	①CEFR B2レベル以上保有者数(全学年) ②実用英語技能検定2級以上保有者数(全学年)	①25名	①25名	①26名	①目標を達成した	B	継続	CEFR B2レベル以上保有者数が目標値及び昨年度実績を上回った。英語検定については、在学中にさらなる高いレベルへのチャレンジを促す仕組みづくりも検討してはどうか。	AA	
				②379名	②550名	②544名	②目標に近い数値を達成した					
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	173名	150名	140名	目標に近い数値を達成した	B	継続	東大、京大、阪大、神大の合格者数が目標値を上回っており、評価できる。スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数の目標値には届かなかったものの継続的に実績は維持している。引き続き、学習指導及び進路指導の充実を図り、次年度目標値を上回る実績を残してもらいたい。	A	
		㉒進学実績	東大、京大、阪大、神大の合格者数	150名	120名	124名	目標を達成した	B	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	191名	-	151名	-	-	-			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	-	0名	-	-	-			
	総合評価			茨木高校らしい自由な校風を上手く継承し、生徒の自主性を伸ばすということを第一に考えた取組みが行われている。また、卒業生と地域の支援を学校活動に生かしていることも評価できる。バディシステムによる授業力の向上については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、取組みが困難であったが、今後も取組みを継続し、その成果を検証していただきたい。							A	

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力・ICT活用力	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	720人	770人	720人	まこと、のぞみ 実施済み L.S.S探 1, 2月予定	B	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①67%	①80% ②90%	①78% ②80%	①スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト表現力の項目の平均値 ②委員による実際の評価の肯定的文言の比率	B	継続	共通テストの8割以上の割合は大幅に減少したものの、英語の平均が維持できたことは評価に値するとともに、その要因について分析されたい。	A
			②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1074人	1000人	1069人	学習活動日、3年講習計画通りの実施。	B	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	25%	40%	9%	共通テスト受験者のうち720点以上の生徒の割合（文系13人、理系14人、計27人） 27/299人	B	継続		
			③英語運用能力	充実	ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	1074人	1080人	1069人	全学年でのネイティブ教員によるスピーキング指導の実施	B	大学入学共通テスト英語平均点	135%	140%	132%	大学入学共通テスト英語筆記の全国平均（河合塾発表の速報値 61.81点に対する大手前の平均 81.3点の比	B	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	54人	受入20 派遣120 交流50	受入・派遣コロナによりなし オンライン交流102人	Gリーダーシップ研修（14名） Gコミュニケーション研修（18人） フィリピン語学研修（23人） 台湾オンライン交流（23人） 台湾第一女子高校（3月20日） ディベート体験会（4人）	A	異文化について理解を深めることができた」と回答した参加生徒の割合	-	93%	-	該当の海外研修は実施できず ●GL研修 満足度100% ●GC研修 満足度100% ●フィリピン 満足度100%	-	再編	コロナ禍により思うような取組を実践できなかったが、オンラインを活用した海外交流の取組のメニューの豊富さは評価できる。	A
			⑤共感性・協調性	充実	①コーラス大会の実施 ②家庭科保育所実習の実施	参加者数	①1074人	①1080人 ②360人	(2360)	①中止（コロナ） ②中止（コロナ） （青兎経験者による講話にて代替）	-	この学校で良かったと回答した生徒の割合	92%	90%	90.9%	●学教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合（R31に指標変更）	B	継続		
			⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部活発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①年間2回 ②未実施 ③未実施	①年間2回 ②360名 ③720名	①2回 ②360名 ③2/10実施予定	①オリエン：休校に伴い形式を変更実施、文化祭にて部活発表会実施 ②360名 ③2/10実施予定	B	クラブ加入率	90%	94%	88%	938/1069	B	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	30人	300	26人	大阪城清掃ボランティア12/18、26人（コロナにより回数、人数を制限して実施）	C	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	85%	75%	88%	卒業時のアンケートより	A	継続	高い志を育むためのOB等による講演会は、回数は減少しているものの、生徒の「目標を高くもつ」という項目割合は高くなっており、評価できる。今後さらに講演会等の内容の充実により、生徒の目標の維持・向上に努めていただきたい。	A
			⑧規範意識	充実	挨拶の励行時間を守るための取り組み	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日 継続中	全教員による5分前指導の実施 学年主任による登校指導 輪番教員による下校指導	B	1年あたりの総連絡者数	2052人	2000人	2495人	2020 2286人 (4.5月休校) 2019 2663人 2018 3725人	C	継続		
			⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	82回	90回	76回	集中セミナー 72講座 課題研究講演 1回 進路講演会 1回 阪大研修 1日（2年全員） 京大研修 1日（1年全員）	B	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	85%	90%	89%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト#28社会貢献意識の項目より	B	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①9回 ②200人	①15回 ②70人	①12回 ②190人	①12回 ②190人	A	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	87%	87%	85.6%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合 前年度数値87.8%を修正	B	継続	論文の書き方を大学教員に指導いただくのは進学後を見据えた上で大変有効。引き続き、外部の資源を活用して課題研究の充実にも努めてもらいたい。実績からは教員研修の取組に課題があるように思える。課題研究を中心とした学校システムの改善を進める中で、教員力・組織力の向上に期待したい。	A
			⑪授業指導力向上	充実	研究授業、授業参観等の実施（授業相互見学の実施）	①研究授業の回数 ②公開授業の回数	①98回 ②未実施	①70回 ②220回	①8回 ②未実施	①授業相互見学実施 ①教員自主研修6 ①初任者なし、2年目2 ②未実施（コロナ）	B	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	90%	90%	92%	後期授業アンケート集計	B	継続		
			⑫課題研究指導力の向上	継続	オール文理による全生徒への課題研究の指導の充実	①担当者会議の実施 ②全生徒の二年の発表会の実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施	①時間割内に定例実施 ②1/27、29	B	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	85%	85	89%	後期授業アンケート質問5「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	B	継続		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高校生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高校生対象）	参加人数	-	20人	①12人 ②- ③-	①マスフェスタ 12/25実施 ②マスカンパ 1/15、16 オンライン実施、地域周知なし ③未実施（コロナ）	-	参加満足度（4段階）	-	-	3.5	-	-	継続	マスフェスタやマスカンパの取組みは、数学を通じて、他校の生徒や教員の研究活動の発表の機会として大きな役割を果たしており、大変評価できる。こうした取組みのノウハウを他の分野の研究活動にも広げられるようなチャレンジを期待したい。	A
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等	参加人数	-	10人	6人	●他校教員の数学授業見学（1人） ●他校教員のマスフェスタへの参加（36+5人）（府内5人）	-	参加満足度（4段階）	-	-	-	-	-	継続		

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								共通テストの平均点が全国的に下がる中、大手前高校も同様の結果となった。一方で、10校共通の学力調査の結果では、各学年とも高い水準で学力の伸長がみられ、大いに評価できる。調査の結果を分析し、次年度以降に生かされたい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	88%	90%	85.2%	299/351人 7科目受験/実受験者数	B	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	25%	35%	9%	センターテスト受験者のうち720点以上の生徒の割合（文系13人、理系14人、計27人） 27/299人	C	継続				
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	全国規模での大会の発表者数	20人	35人	16人	マifesta 12人 SSH全国発表 4人	C	継続	SSHを軸とした課題研究活動は評価できる。一方で文理の枠を超えた取組みに課題があり、こうした課題について深く探究していくような取組みを試みることも検討してはどうか。	A		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①1名	①府レベル 20名 全国レベル 5名	4人	SSH全国発表会「生徒投票賞」	C	継続				
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	GTECスコア690点（CEFR A2相当）以上 100%取得の維持	100%	100%	100%	CEFR A2相当のスコアを取得できる力を持っている。	B	再編	CEFR A2段階の目標値は昨年度に引き続き、維持し達成できたことは評価できる。引き続き、英語運用能力の向上に努めるとともに、次年度再編される取組みに期待したい。	AA		
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	121人	135人	123人		B	継続	進学実績については、どの項目も多少の増減はあるものの、共通テストの平均点が下がる中、現状を維持していることは評価できる。今後は、クラス分けの改革等を通じて、生徒同士の切磋琢磨により、さらなる飛躍を期待したい。	A		
		㉒進学実績	進路希望達成率（第一志望への合格率）	47%	43%	41%		B	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	164人	155人	144人		B	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	2人	2人		B	継続				
	総合評価			課題研究を中心とした学校システムの改善に取り組むとともに、運営する体制が十分に整えられていることは大変評価できる。また、コロナ禍の中、海外研修の実施が困難な状況においても、オンラインを活用した取組みにより、交流事業を継続している点も評価できる。課題研究のさらなる充実に向けた取組みに期待したい。							A		

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価). Rows include categories like 'I. 確かな学力の向上を図る', 'II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ', 'III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす', 'IV. 教員の指導力向上をめざす', 'V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する'.

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							共通テストの5教科7科目受験者の割合は昨年度に引き続き、高い水準を維持しており、粘り強い教員の取組みが高い水準を維持できている要因ではないか。引き続き、飛躍を期待する。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	84%	80%	83% (296/356)	共通テスト受験者 計330名/356 800点満点の受験者 計13名 800点満点以下の受験者 計21名	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の得点率80%以上	20%	25%	11名 (3.7%)	共通テストの大幅な難化に伴い、高得点者の割合は減少した。 ※得点率70%以上 計117名 (39.5%)	B	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	外部でのポスター、プレゼン発表数	21グループ	15グループ	23班85名 +個人26名	京北高校課題研究発表会招待発表1班2名、SSH生徒研究発表会1班2名、FESTAT2班5名、NAISTオンライン研修3班10名、情報処理学会1班2名（ジュニア会員特別賞）、大阪サイエンスデイ第1部8班28名、日経ウーマノミクス2021シンポジウム2班10名（SDGs座談会発表コンテスト1、高校生研究成果発表ポスターセッション1）、関西NBCニュービジネスアワード2021応募26名、大阪サイエンスデイ第2部2班7名（入賞）、マスタフェスタ1班2名、WWL発表会3班12名、GLHS合同発表会1班5名	A	継続	校外での発表活動の充実が同え、また発表分野も多岐にわたることが非常に評価できる。学校全体で探究活動の充実に向けており、さらなる活躍を期待する。	AA	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	外部のコンクール・コンテスト入賞者	10チーム 40名+個人9名	入賞30名	6班22名 +個人4名	京都大阪マインターセクション23名（奨励賞2名）、化学グランプリ18名（銅賞1名）、科学の甲子園大阪府大会1班6名（総合第2位、府立高校第1位）、化学グランドコンテスト2班5名（最終選考会2班5名）、日経ウーマノミクス2021シンポジウムSDGs座談会発表コンテスト高校生部住友電気工業最優秀賞1班（4名）、関西NBCニュービジネスアワード2021U-19部門入賞1名、大阪サイエンスデイ（2班7名、入賞）、数学オリンピック31名（予選突破1名）	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	各種英語外部検定試験においてCEFR ①B2レベル ②B1レベル	①91名 ②248名	①80名 ②200名	①37名 ②209名	前年度の英語検定試験からGTECに指標変更したことでB2レベルの数は減少したが、B1レベルは目標値を上回っている。	A	継続	昨年度に引き続き、B2レベルの生徒が目標値を上回っている。継続的な取組みとともに、さらなる発展充実を期待する。	AA	
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	91名	90名	99名	大阪大学、神戸大学の合格者数及び進学者数が増えた。京都大学は総数としては減少したが現役合格者数が増加している。	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学、難関国公立大学合格者について、目標値及び昨年度実績を上回る結果となり、大変評価できる。国公立大学への進学者数も目標値を上回り、高い水準を維持できている。これらの要因を分析し、さらなる飛躍に期待する。	AAA	
		㉒進学実績	難関3国公立大学（京大・阪大・神大）現役・浪人合格者数	72名	80名	82名	京都大6名、大阪大41名、神戸大35名前年度比10名増加した。	A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	170名	150名	161名	現役合格者数は171名に増加しているが、進学者は161名である。目標値は十分上回っている。	A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	0名	新型コロナウイルスの影響から今年度も0名であったが、大阪大学外国語学部の進学者が大幅に増加している。	A	継続			
	総合評価			地域に密着した活動を活発に行っており、「なわて学」や四條畷市と連携した取組みなどを通じて、生徒の母校愛を醸成している。また、進路、授業、課題研究を「見える化」する取組みは評価できる。これらの成果については、今後、地域拠点の取組みを通して、より多くの学校に普及していただくことを期待している。							AA	

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA…きわめて高い成果をあげている AA…高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①学習方法の定着 読解力リテラシー ②言語・ICT活用 ③英語運用能力 小項目「はぐくみたい力」 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	①1年生学習合宿 ②自習室（月～木の夜8時まで）の開放	①参加生徒数 ②自習室の年間開放日数	①中止 ②91日	①1年全員 ②80日	①中止 ②103日	①4月に予定していたが、緊急事態宣言により中止。 ②自習室は、5月上旬からスタート、103日開放した。	A	①高校での学習方法が学べたと回答した生徒の割合 ②自習室の1日当たりの平均利用人数	①- ②67人	①95% ②60人	①中止 ②48人	①合宿最終日に予定していたチームビルディングを実施し、好評であった。 ②年明けから利用者はやや減少したため、平均値は若干減少したが、利用者生徒の90%以上が必要だと回答。	B	継続	162中学校から生徒が入学している中で、チームビルディングのための合宿が実施できなかったことは大きな痛手だったと思うが、生徒と教員がカバーしながら、取組を継続できたことは評価できる。引き続き、英語運用能力の育成や課題研究の取組を通して、確かな学力の育成に努めてもらいたい。	A
			継続	①校内課題研究発表会 ②校内課題研究発表会、課題研究（LCⅢ）論文の作成	①参加生徒数 ②課題研究（LCⅢ）の論文数	①720人 ②1111本	①1,080人 ②100本	①1425人 ②124本	①昨年度実施できなかった発表会を本年度4月28日に実施。本年度の発表会は2月4日に実施。 ②昨年度を大きく上回り、論文は124本作成。	A	課題研究の取組が充実していたと回答した生徒の割合	84%	90%	84%	成果指標には達しなかったが、大学教授の基調講演や分科会にも様々な大学教授等より講評をいただいた。また、府立高校1校、市立高校1校を招聘し代表発表も行った。生徒全員が課題研究に取り組みシステムが構築され、取組内容も充実した。	A	継続		
			充実	①英語コミュニケーション講座（KITEC） 【1年全員および発展コース（1・2年希望者）】 ②国内での宿泊研修 ③国際交流センター留学生との交流	参加生徒数	①1年360人 ②- ③21人	①1・2年 400人 ②15人 ③20人	①417名 ②中止 ③27名	①1年全員に加え、1・2年の希望者による発展コースを実施。 ②海外研修にかわり計画したがコロナ禍により中止。外部事業を紹介。 ③年間20回実施。	A	それぞれの取組を通して、英語等に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①1年93% ②- ③91%	①95% ②90% ③90%	①95% ②- ③100%	①希望者による発展コースを実施できたことより満足度も上昇した。 ②コロナ禍の状況の変化により次年度は海外を視野に入れて検討。 ③天王寺区内の公立高校2校も参加して非常に高い効果が得られている。全員が肯定的な回答をしている。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④健康・体力、協調性 ⑤違いを認め共に生きる力、共感性、協調性 小項目「はぐくみたい力」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	三部会（生徒・教員・自治会）が主体となった記念祭（文化祭・体育祭）の実施	三部会および記念祭各委員会の生徒構成員の延べ人数	310人	300人	308人	記念祭関連で計11委員会を設置し、それぞれに各クラスから1名参加した。加えて、自治会執行部も運営に携わり、教職員と生徒で運営を行った。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合（「分らない」を除く）	生徒97% 保護者97%	満足度 98.5%	体育祭を6月、文化祭を9月に予定していたが、いずれも10月に変更。度重なる変更にも柔軟に対応でき、生徒の満足度は高かった。	A	継続	昨年度できなかったサイエンスツアーなど、今年度は予定していた取組を実施することで、生徒の協調性等を育む有意義な機会を提供できたのではないかと。	A	
			継続	①高津キャラバン隊（ボランティア活動） （生活指導部） ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①- ②生徒自治会・クラブ3団体	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ3団体	①4クラブ ②生徒自治会・希望クラブ8団体	①全クラブが実施予定であったが、希望制とした。 ②昨年度と同様にビデオレターでの交流を実施。	B	それぞれの取組が有意義だったと回答した生徒の割合	①- ②100%	①95% ②95%	①100% ②-	①コロナ禍のためすべてのクラブが参加できていないが、参加した生徒からは高い満足度が得られている。 ②自治会・吹奏楽部など8団体も実施。ビデオでのやり取りのため満足度の調査はできなかったが、参加生徒からは積極的な意見が聞かれた。	A			継続
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑥高い志 ⑦進路実現 小項目「はぐくみたい力」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内（九州）サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①1,827人 ②27人 （オンライン） ③中止	①1,500人 ②15人 ③30人	①1,950人 ②事前学習2回 各15人 ③オンライン3回、海外延べ209名。本校延べ66名 ④41名	①オンラインなどを交えて実施した。 ②オンライン交流3回（韓国、フィリピン、台湾）海外延べ209名。本校延べ66名 ③2班（20・21名）で実施。	A	それぞれの取組が有意義だったと回答した生徒の割合	①96% ②100% ③-	①95% ②95% ③100%	①96% ②95% ③100%	①人数、満足度とも高い水準を維持できた。 ②通信環境の問題があったが、目標値を達成。 ③密を避けるため、20名程度の2班編成とした。結果として満足度は高くなった。	A	継続	コロナ禍の中、オンラインを効果的に活用しながら、昨年度を上回る実績を残した。特に体験型進路指導学習は高津高校の特徴的な取組であり、生徒の満足度も高い。今後も豊富な体験メニューを実施するなど、進路指導の充実にも努めていただきたい。	A
			継続	①土曜講習（オンライン講習を含む）の実施 ②体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実	①実施日数 ②職場、大学研究室の訪問先数	①1・2年 19日、3年 21日 ②職場63カ所、研究室46カ所	①各学年 18日以上 ②職場63カ所、研究室51カ所	①1年生は原則全員参加、2・3年生は希望参加とし、オンラインも活用しながら組織的かつ計画的に実施。 ②オンラインも活用して実施。	A	それぞれの取組が有意義だったと回答した生徒の割合	①83% ②97%	①80% ②90%	①1年 77% 2年90% 3年86% ② 1年100% 2年97%	①土曜講習は、オンラインなどを利用しながら実施。 ②多くの職場、研究室に協力をしていただき、昨年度並みの少人数での訪問ができたので満足度も高かった。	A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業指導力向上 ⑨進路指導力向上 ⑩教材開発、授業効果の向上 小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組の実施回数	研究授業10回 研究協議10回 授業参観78回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観80回	研究授業2回 研究協議2回 授業参観80回	研究授業および研究協議の期間を2回設けて実施した。研究授業とした授業の合計は1回目12コマ2回目4コマ。	B	本校の授業は、知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃いと回答した生徒の割合	86%	80%	89%	それぞれの教員が積極的に取り組んでおり、目標も昨年を上回った。	A	継続	ICTが多く導入された新しい学校現場における教員の授業力向上に係る研究を実施していただきたい。また生徒の進路指導にあたっては、生徒の興味関心に加え、進路の分野を選択させる際には職業観を取り入れてはどうか。	AA
			継続	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	14回 190人	15回 200人	15回実施、196名が参加。	外部講師等も利用しながら適切な時期に研修を行い、研修で得た情報をもとに、進路指導や授業・講習の改善を図っている。	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	90%	85%	93%	「高津進路プログラム（KSP）」として計画的に実施。個人の結果も分析して指導に活用するなど改善を加えている。	A	継続		
			継続	①補助教材（オリジナル）の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	約7割程度の教員がICTの活用を実施。昨年度までの補助教材に加えLEAF（学習支援システム）を活用する教員が増加した。LEAF活用量（25/66）LEAF活用研修参加者（47/65）	B	①生徒授業アンケート質問5（教科書その他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている）に対する評価 ②生徒授業アンケート質問9（授業を受けて知識や技能が身についた）に対する評価	①3.4 ②3.4	①3.3 ②3.3	①3.5 ②3.5	端末やネットワーク環境の整備とともに1人1台端末の活用も徐々に進んでいる。	A	充実		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑪GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑫GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	国際交流センターでの留学生との交流（GLHS天王寺区内公立高校）	参加校数および参加人数	-	4校 30人	3校 41人	1校について参加希望者がいなかったが、合計人数は目標値を大幅に上回っている。また、昨年度に引き続き参加する生徒がいるなど内容についても好評であった。	-	参加満足度（4段階）	-	-	3.5	-	継続	台湾サイエンスツアーを近隣校を招いてオンラインで交流会を実施できたことは評価できる。また、GLHSでは天王寺区内の国際交流の拠点となっている。さらなる取組みの充実にも努めてもらいたい。	A	
			新規	①WEBページに「これから探究活動を進める学校へ」として資料等を公開。 ②「台湾サイエンスツアー」において、追手門学院、雷田林高校と連携して生徒・教員を招聘	参加人数	-	①充実 ②連携校から各5名	-	①課題研究に関する資料をHPに掲載した。 ②事前学習会を2回実施。オンライン交流会に切り替えて実施。事前学習会には、追手門学院大前高校から生徒5名教員3名、雷田林高校から生徒1名教員1名参加。オンライン交流会は、7月19日に韓国、11月3日に台湾およびフィリピンの高校と交流を実施した。1月10日に「Asia-Pacific high school Forum2022 online」を実施し、136名が参加した。	-	参加満足度（4段階）	-	-	-	-	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学共通テストの5教科7科目受験者の割合は、目標値及び昨年度実績を大きく上回った。生徒も教員も粘り強く取り組んできたことがこの結果に結びついたのではないかと引き続き、さらなる飛躍を期待する。	AAA
		⑭大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	75.20%	75%	87.50%	多くの生徒が国公立大学への志望を貫き最後まで努力を続けた。昨年度は目標を下回ったが、本年度は一昨年度を上回る結果となった。	A	継続				
		⑮大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の生徒の割合	19.90%	20.00%	5.23%	多くの生徒が努力を続けてきたが、共通テストの難化の影響もあり、目標値を下回った。	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑯課題研究活動	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	81%	90%	80%	成果指標には達しなかったが、1人1台端末を利用することもでき、課題研究に関してグループ内での共有がスムーズに行えた。その結果、生徒の取組み精度は確実に向上してきている。	B	継続	一人一台端末を活用して課題研究を進め、昨年度同様の実績を残すことができた。しかし目標値を下回っているため、目標値及び成果指標の再検討も視野に入れてはどうか。	A		
		⑰コンクール・コンテスト等の成果	入選数	12本	10本	10本	オンラインによるものもあったが、多くの発表を行うことができ、成果指標の数値には達した。	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験	1・2年生の12月実施第2回GTECスコアレポート	CEFR B1:168人	CEFR B1:100人	CEFR B1:208人	1・2年生について全員がGTECを受検することとし、それに向けて指導を進めてきた結果、目標を大きく上回ることができた。	A	継続	CEFR「B1」段階の生徒が昨年度より大幅に増加しており、大変評価できる。外部試験を効果的に活用するとともに、英語運用能力の向上を図るさらなる取組みに期待する。	AA		
	IX. 進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	71人	80人	80人	前年度の実績より上回り目標に達した。継続的な指導を行い、近畿圏を中心に全国の有力大学への進路を安定して実現できている。	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、進学実績、国公立大学への進学で目標値及び昨年度実績を上回っており、高い実績をあげた。これらの要因を分析し、さらなる飛躍を期待する。	AAA		
		⑳進学実績	近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	57人	80人	77人	目標を高く掲げた生徒が多く昨年度を大きく上回った。目標にはやや届かなかったが、いわゆる上位層の生徒は最難関国立大学への合格といった成果を上げることができた。	A	継続				
		㉑国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	139人	130人	152人	目標を大きく上回り、安定した成果を上げることができた。合格者は212人に達しており、国公立大学へのこだわりを持って挑戦する生徒が多数見受けられた。	A	継続				
		㉒海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	4人	1人	0人	今年度は海外へ進学する希望生徒がいなかった。	B	継続				
	総合評価			体験型進路学習の実施など、進路指導を中核に据えた、学びのシステム化が確立されている。また、教員の授業力向上の取組みについても積極的に行われていることが評価できる。今後は、1人1台端末の活用による課題研究活動の更なる充実に向けた取組みに期待したい。							AA		

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立 小項目(はぐくみたいか) ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	桃陰セミナーの実施及び部学習の促進(勉強は学校でする自学自習の習慣づけ)	桃陰セミナー実施回数	14回	20回	24回	前期12回 後期12回	A	桃陰セミナー参加者の満足度 部学習のべ実施回数	満足度95% 部学習22回	満足度80%以上 部学習50回以上	満足度95.9% 部学習57回	桃陰セミナー参加者数 一日平均154名 部学習参加者数のべ約600名	A	継続	コロナ禍で制限があったが、桃陰セミナーや校内留学プログラムにより、確かな学力の育成に努めた。参加者数の増加やアンケート結果からも、取組みの充実がうかがえる。今年度完成した課題研究のテキストを活用することで、探究活動がさらに充実したものにすることが期待できる。	AA
			継続	天高スタンダードの充実(各学年で達成する学力基準)及び学力育成プログラムの見直し	天高スタンダード達成目標の見直し、学力育成プログラムの見直し、自主教材の作成。	自主教材(国・数・化・英・創知I・デバイス)	各教科より 良き改訂を めざす	自主教材の 作成及び改 訂と使用	国語、化学、創知I、デバイスについて自主教材を作成、使用している。	B	天高スタンダード到達目標の達成率	90%	80%以上	89.5%	各教科達成率自己評価の平均	A	継続		
			継続	「Road to GL」(5日間校内留学)を実施	校内留学プログラム「Road to GL」の実施	92名	参加者85名以上	105名	1年92名、2年13名が参加した。	A	「Road to GL」参加者の満足度	100%	90%以上	96%	1日はコロナ休校によりオンラインでの開催となったが、参加者の満足度は目標を超えることができた。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④人権意識、共感力の育成 小項目(はぐくみたいか) ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会、人権HRの実施	人権講演会、人権HRの実施	講演会等9回	計画通りの実施	9回	1年：人権講話・情報モラル・いじめ弱者問題・障がい者理解 2年：社会の中の人権・ジェンダー・戦争と人権 3年：雇用と人権・在日韓国人問題	B	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	97%	90%以上	95.0%	アンケート平均	A	継続		
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	水泳訓練・林間学校を規模縮小して実施	計画通りの実施	長距離走大会を除いて実施	水泳訓練(7月)、林間学校(日帰り7月～8月)、水泳大会(学年別)、長距離走大会中止、金剛登山・徒歩訓練(2月)。	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	96%	90%以上	95.0%	学校教育自己診断「水泳訓練、林間学校は有意義である」肯定評価平均	A	継続	オンラインで開催した学校行事もある中、水泳訓練及び林間学校を実施することができ、山や海で人間を超えたものに叱られるという経験の重要性が生徒にもしっかり認識されたと思われる。	AA
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 音楽鑑賞	計画通りの実施	音楽鑑賞実施	計画通りの実施	実施	音楽鑑賞(1年1月実施)・・・休校のため中止 文楽鑑賞(2年11月実施)	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	95%	90%以上	98%	伝統芸能に触れる貴重な機会であり、文楽では充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成 小項目(はぐくみたいか) ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	1320	1800以内	2002	(R2は4・5月休校)	C	部活動への加入率	94%	95%維持	92%	のべ部加入率108%	B	継続		
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等、可能な範囲で実施。	講演会の可能な範囲での実施回数	天高アカデミア18回実施	天高アカデミア12回以上	天高アカデミア15回実施	①ヘロボスカイト太陽電池②都市計画③グローバル経済④音声情報処理⑤ウミウシの再生能力⑥課題研究の伝説とAI⑦海に住む動物の遺伝子⑧フックホール⑨ロボット⑩レトロウイルス⑪人工知能⑫旅⑬量子⑭昆虫と微生物	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	98%	90%以上	99%	満足度平均	A	継続	コロナ禍の影響もあるのか、遅刻者数の増加や部活動加入率の低下が気になる。教育委員会と連携しながら、より丁寧な対応が求められる。天高アカデミアの講演テーマは秀逸。生徒の感性を刺激する取組みであるので、継続して取組んでもらいたい。	AA
			再編	SSH、GLHS等を活用した海外研修。 (米国シリコンバレー、他) 独自の取り組みによる海外セミナー(台湾)	①国内大学研究室等を訪問し、留学生等との交流を図る。 ②海外の学校とのWEB交流を実施する。	中止 WEB交流を実施	計画通りの実施	海外研修中止 国内研修実施 オンライン交流	①国内研修実施(1月)量子研・国連大学・日本科学未来館訪問(1泊2日) ②ヘルシンキ国際高校WEB交流(3月)	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	-	85%以上	100%	国内研修参加者満足度100%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究授業の実施 教員相互の授業見学実施 小項目(はぐくみたいか) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	研究授業を行う。他の教員の授業を見学する。授業公開週間を設置する。	①研究授業の回数。 ②教員1人当たりの授業見学回数。	①研究授業36回実施 ②授業見学10.1回	①研究授業延べ15回 ②授業見学平均5回	①研究授業延べ27回 ②授業見学10.9回	授業力向上を考える会3回実施	A	生徒による授業アンケート(満足度)	第1回87% 第2回87%	80%以上	第1回87.9% 第2回87.8%	第1回7月実施3.52/4.00 第2回12月実施3.51/4.00	A	継続		
			継続	外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	外部講師による教科指導法講座の回数。	外部講師による教科指導法講座5回	オンライン講義等を受講	オンライン講義(物理、歴史、英語、数学、化学、国語)	B	生徒による学校教育自己診断アンケート(授業や教材、教え方の満足度)	92%	85%以上	94%	学校教育自己診断より満足できる授業が多い：92% 教材や教え方に工夫：96%	A	継続	教員の入替わりが激しくなっており、今後、さらなる教員同士のコミュニケーションが重要。先輩の教員から経験年数の少ない教員に向けた「桃陰塾」などを引き続き効果的に活用しながら、組織力を高めてもらいたい。	A	
			継続	桃陰塾として実施する。	毎回ミドルリーダーによる講師を変えて実施する。	4回実施	7回実施	7回実施	首席等を講師に実施。 4月(教務)・6月2回(伝統行事、生指)・7月(あしひ山荘下見)・10月(進路)・1月(共通テスト分析会)・2月(保健)	B	参加教員の満足度	97%	85%以上	100%	新転任の教員対象に講義型・参加型で実施	A	継続		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	①研究部会議への参加を広く呼びかけて実施。 ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける。 ③大阪サイエンスステイ第1部(大阪府生徒研究発表会)や科学オリンピック講座等への参加を呼びかける。	参加校数、参加人数	-	合計5校、生徒20名、教員5名以上の参加	①研究部会議中止 ②校内課題研究中間発表会で呼びかけ ③24校参加	①コロナ感染者数急増に伴い中止。 ②課題研究中間発表会は他校参加なし。 ③24校157名参加。	A	参加満足度(4段階)	-	-	3.7		-	再編	校内の課題研究発表会に他校を招くことができるよう企画できたことは評価できる。次年度の取組を再編されるということであるため、今後の内容等検討され、近隣高校に天王寺高校の課題研究の取組みが普及されることを期待したい。	A
			新規	①校内教員研修会への参加を近隣校に呼びかける。 ②校内課題研究発表会に参加した教員にループリッパ評価を経験してもらう。 ③大阪サイエンスステイ第1部(大阪府生徒研究発表会)の審査員への参加を呼びかける。	参加校数、参加人数	-	他校からの教員参加合計3校10名以上	①公開授業研究実施 ②校内課題研究中間発表会で呼びかけ ③3校48名参加	①公開授業研究にGLHS校以外の参加なし。 ②課題研究中間発表会に近隣校参加なし。 ③理科・数学・情報の教員48名参加。	A	参加満足度(4段階)	-	-	-		-	再編		

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査の結果から、特に1年から2年にかけての学力の伸長がみられた。大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は目標値及び昨年度実績を上回ったことも評価できる。引き続き、高い水準で学力の向上に努めてもらいたい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	353名中、 334名 94.6%	95% 以上	96.3%	343名/在籍356名	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における 得点率8割以上の生徒の割合	142名 (42.5%)	35%以上	12.2%	42名/343名	C	再編			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリック評価の導入	教科・創知、校内課題研究・大阪サイエンスデーで活用。	開発及び校内研究発表における活用	教科・創知、校内課題研究、大阪サイエンスデーで活用	教科・創知での発表で活用。大阪サイエンスデー・課題研究において活用		B	継続	全国規模のコンクール・コンテスト等の受験者数等は昨年度実績を下回ったものの、多数の生徒がコンクール・コンテスト等に参加していることは評価できる。入賞者も目標値を下回ったが、引き続き、高いレベルのコンクール・コンテストにチャレンジしていただきたい。	AAA
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の①受験者数 ②入賞者数	①327名+2件 ②2名+3件	①300名 ②5名	①322名 ②3名	物理7/9【一次通過1】 化学84【一次通過3：銅賞1、奨励賞1】 生物35【一次通過2：敢闘賞2】 情報13【敢闘賞7】 数学66受験 地理66受験【一次通過1：銀賞1】 地学49受験	B	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	TOEFL Junior 1・2年全員受験	新規	CEFRB1以上 到達200名以上	465名	1年（7月実施）193名 2年（2月実施）272名	A	継続	TOEFL Juniorの詳細な評価基準がなく、評価は低くなっているが、CEFRB1段階の生徒が目標値を大きく超えたことは評価できる。今後は目標値についても検討の上、引き続き、英語運用能力の育成に努めてもらいたい。	C	
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	179名	150名以上	178名	京都大54名、大阪大50名、東京大2名他	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は目標値を上回り、昨年度に引き続き高い実績を維持している。国公立等医学部医学科進学者数は目標値及び昨年度実績を上回っており、大変評価できる。引き続き、学習指導及び進路指導の充実を図っていただきたい。	AAA	
		㉒進学実績	国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	19名	15名以上	22名	大阪公立大5名、大阪大3名、他	A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	183名 (52%)	全体の40%以上	52.5% (186名/卒業354名)	東京大2名、京都大32名、大阪大30名、神戸大32名、大阪公立大40名他	A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名進学	受験者を出す	1名進学	西シドニー大学（オーストラリア）	A	継続			
	総合評価			天王寺高校らしさ「野人たれ」を実現するための、学習指導、行事等各種の活動がうまくシステム化されている。また、課題研究に関するテキストを自作するなど、組織的な取組みを実施していることが評価できる。今後、天王寺高校の成果をGLHS以外の学校に普及する方策を確立していただきたい。							AA	

令和3年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立生野高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-8

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたいカ） ・言語活用カ ・ICT活用カ ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①基礎学力の定着	1 自学自習時間を増やす取組 2 進学講習の実施	1 (1)学習状況調査の実施 (2)進路HRの実施 2 3年進学講習参加者数	1(1)2回実施済 (2)各学年5回	1(1)年3回実施 (2)進路HR 1年5回 2年9回 3年10回実施	1(1)平日 ・1年前期 77.7分 ・2年前期 87.4分 ・3年前期 169.5分 休日 ・1年前期 142.2分 ・2年前期 139.4分 ・3年前期 5.45時間 ・1時間未満（前期） 1年19.7% 2年16.9% ・3年前期希望者講習 735名 ・3年後期希望者講習 457名 ・3年夏期講習 925名	A	1(1) ・各学年の自学自習時間 ・1年・2年の平日の自学自習時間1時間未満の割合 2 進学志望達成率	1(1) ・1年前期 84.8分 ・2年前期 72.1分 ・3年前期 173.8分 ・1年後期 86.9分 ・2年後期 77.3分 ・3年後期 208.3分 ・1時間未満（前期） 1年19.7% ・1時間未満（後期） 2年23.8%	1(1) ・1、2年 90分 ・3年 180分 ・1時間未満 30%以下 2 達成率 65%以上	1(1)第1回 実施、11 月に第2回 実施	1(1)平日 ・1年前期 77.7分 ・11月 79.8分 ・2年前期 87.4分 ・11月 87.6分 ・3年前期 169.5分 ・11月 219.5分 休日 ・1年前期 142.2分 ・11月 131.6分 ・2年前期 139.4分 ・11月 136.3分 ・3年前期 5.7時間 ・11月 7.3時間 ・1時間未満（7月-11月） 1年19.7% → 19.0% 2年16.9% → 15.9%	B	継続	英語集中講座の取組みが昨年度から増加し、今年度は昨年度以上の参加者数となったことは大変評価できる。また自学自習時間については、目標値には達しなかったものの、1時間未満の割合は昨年度に比べ大きく減少しており、評価できる。その要因について分析するとともに、引き続き、学習指導の授業を図っていただきたい。	AA	
			②言語活用カ・ICT活用カ	継続	プレゼンテーション能力の向上	・プレゼンテーション発表者数（校内・校外） ・海外サイエンスツアーでの研究発表	・校内 延べ717名 ・校外 延べ49名 ・中間発表会満足度 94%	・校内 延べ720名 ・校外 延べ50名 ・中間発表会満足度 96%	校内は達成、校外もほぼ達成 ・校外は延べ45名 ・中間発表満足度 95.5%	A	・アンケートによる生徒の評価 ・情報収集能力およびプレゼンテーション能力の向上	・中間発表会満足度 94%	・情報収集能力およびプレゼンテーション能力が向上したと感じる生徒の割合70%以上	中間発表満足度 95.5%	・1、2年生は全員が複数回プレゼンテーションを実施。 ・校外は延べ45名 ・中間発表満足度 95.5%	A	継続		
			③英語運用能力	継続	1 英検を利用したの英語運用能力向上 2 英語集中講座の実施	1 運用能力をはかる目安として英検を活用し、計画的にその向上を図る。 2 英語集中講座参加者数	1 1年準2級以上取得率 69.7% 2 2年2級以上取得率 50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数 23名（77%増）	1 1年準2級以上取得率 60% 2 2年2級以上取得率 50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数 25名以上	1 1年生は受験なし 2 2年次に2級を受けるように指導 ・2年結果判明は来年3月8日 2 参加者増	-	1 英検2級以上取得率 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数	1 1年準2級以上取得率 69.7% 2 2年2級以上取得率 50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数 23名（77%増）	1 1年準2級以上取得率 60% 2 2年2級以上取得率 50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数 25名以上	1 1年生は受験なし 2 2年次に2級を受けるように指導した	1 1年準2級以上取得率 30% 2 2年2級以上取得率 14% 2 英語集中講座参加者 36人	B	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたいカ） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力	継続	異文化理解教育の推進	・海外スタディツアー、サイエンスツアーの参加者数	・コロナ関係で実施できず	・60名以上	・海外スタディツアーは中止 ・サイエンスツアーは代替としてオンライン研修を3月に2回実施 14名、16名	A	・アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	・スタディツアー 98% ・80%が参加して英語に自信がついた、100%が英語への学習意欲が増したと回答 ・サイエンスツアー コロナ関係で実施できず	・韓国泳業高校との交流会満足度100% ・サイエンスツアー代替オンライン研修の満足度100%	・韓国泳業高校との交流会満足度100% ・サイエンスツアー代替オンライン研修の満足度100%	A	継続	昨年度実施できなかったサイエンスツアーを今年度はオンラインにより実施し、生徒満足度も目標値を上回ったことから、評価でき、異文化理解の促進に貢献したのではないかと、体育祭が中止となり思うように行事ができなかったものの、継続して部活動の高い実績を残しており、文武両方ともに充実が伺える。引き続き、生徒個々の能力の伸長に努めてもらいたい。		
			⑤共感性、協働性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	・自治会による部代表者会議及びリーダー講習会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 ・学校行事に進んで参加する生徒の割合 ・府大会以上の大会出場部数を恒常的に確保	・部代表者会議の開催6回 ・リーダー講習会参加者65名以上 ・行事参加率調査80%以上 ・延べ20部以上	・部代表者会議6回を実施 ・リーダー講習会は後期終業式の日に実施して44名参加 ・文化祭全部参加 ・延べ12部出場	・学校教育自己診断による生徒の評価（達成感、満足度） ・文化祭 中止 ・体育祭 97% ・陸上部、男子ソフトテニス部、写真部、柔道部	・部活動参加率97% ・文化祭 中止 ・体育祭 97% ・陸上部、男子ソフトテニス部、写真部、柔道部	・学校教育自己診断による生徒の評価（達成感、満足度）80%以上 ・府大会以上の大会出場部数 延べ20部以上	・生徒の満足度 80.3% ・府大会以上出場12部、陸上部全国決勝進出、写真部全国準優勝	・生徒の満足度80.3% ・府大会以上出場12部、陸上部全国決勝進出、写真部全国準優勝	A	継続				
			⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組	・教員の一致した指導	・保護者との連携 ・生徒指導部による特別指導時 ・全教員による登校指導年間4回 ・毎朝の校門指導	・校門指導毎朝、登校指導年間4回、遅刻特別指導	・コロナにより保護者は参加できず。登校指導は2月に4回目を実施した。 ・毎朝校門指導を実施	・欠席者数、遅刻者数	・遅刻者数 延べ1928名 ・欠席者数 延べ4280名	・遅刻者数 延べ1500名以下 ・欠席者数 延べ4000名以下	・遅刻者数 1332 ・欠席者数 4680	B	継続				
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたいカ） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志を育む	充実	1 国公立大学へのキャンパスツアー 2 卒業生による講演会 3 リーダー講習会 4 地域清掃等ボランティア活動 5 灯びプロジェクト 6 振り返りの実施	1 キャンパスツアー参加者数 2 講演会の回数 3 講習会の参加者数 4 地域清掃活動の回数 5 灯びプロジェクト参加者数 6 外部発表会への参加者数 7 定期考査、学力テスト等で振り返りを実施	1 1、2年夢ナビ参加者300名以上 2 キャンパスツアー参加者100名以上 3 リーダー講習会参加者65名以上 4 PTAと連携した地域清掃の実施2回以上 5 全ての定期考査や学力テスト、模試で実施	1 夢ナビ1年生徒全員に紹介 ・夢ナビオンラインでの開催を1年生徒全員に紹介 ・キャンパスツアー参加者 京大10名（人数指定） 2 講習会 ・3年15講座、1年、2年常時英国で継続実施 ・リーダー講習会は後期最終日に実施44名参加 6 振り返りはすべての定期考査や学力テスト、模試で実施した。また、振り返りを行う授業も増え、授業改善にも生かされている。	A	・アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	1 1、2年夢ナビ コロナのため中止 ・キャンパスツアー参加者79名（大阪大学のみ）参加満足度 97.2% 4（PTAと連携した）地域清掃の実施 1回 体育祭	1 夢ナビ ・コロナ禍によりオンラインでの開催を1年生徒全員に紹介 ・キャンパスツアー参加者 京大10名（人数指定） 大阪118名 満足度 98% 6 振り返り100%実施	1 夢ナビの開催など、コロナ禍で昨年度できなかった取組みから今年度実施でき、生徒の満足度も高い。引き続き、取り組み内容の充実を期待したい。	A					
			⑧授業力の向上	継続	1 校内における研究授業の実施 2 授業の相互参観	1 研究授業の回数 2 相互参観の教員参加率	1 国、社、数、理、英、体、家 2 研究授業公開数20 2 全教員による授業参観参加	1 計10回実施 2 見学週間 ・公開率 100% ・平均見学率 52.4%	1 英語、数学、理科、体育、国語で実施 2 見学週間第一回 57.1% 36/63 見学週間第二回 47.6% 30/63	C	・授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年88.7%→88.1% 2年89.1%→91.1% 3年88.8%→89.1%	1年 85%以上 2年 90%以上 3年 90%以上	第一回目、第二回目とも目標達成	第一回目→第二回目 1年88.8%→91.1% 2年89.5%→91.1% 3年91.5%→94.6%	A	継続	3年生の授業理解度の向上は評価でき、その要因について分析された。生徒は自身の学習の振り返りを、教員は自身の授業の振り返りを実施する文化が定着することを期待したい。	
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたいカ） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑨授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	13名参加 駿台12、他1	30名以上（教員数の約半分）	延べ26名参加	C	授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年88.7%→88.1% 2年89.1%→91.1% 3年88.8%→89.1%	1年 85%以上 2年 90%以上 3年 90%以上	第一回目、第二回目とも目標達成	第一回目→第二回目 1年88.8%→91.1% 2年89.5%→91.1% 3年91.5%→94.6%	A	継続		
			⑩GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	探究IIポスター発表、成果発表会への参加	参加者数	-	参加者数 20名	7名参加	・兵庫県生物学会、住吉高校で発表	-	参加満足度（4段階）	-	-	-	-	継続	生野高校がこれまで積み上げてきた探究活動のノウハウとその効果を、他校に普及してほしい。その手法として他校に出向くことも一つではあるが、是非生野高校が主催する課題研究発表会等を他校の生徒・教員を招くなど、地域の探究活動の拠点としての役割を担っていただくことを期待する。	
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	小項目（はぐくみたいカ） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑪GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	・探究IIポスター発表と成果発表会、研究協議への参加 ・公開授業・研究協議への参加	参加者数	-	参加者数 20名	22名参加	・校長向けGWS活用講座参加22名 満足度100%、活用度77%	-	参加満足度（4段階）	-	3.6	-	継続				

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テストの5教科7科目受験者の割合は、昨年度に引き続き目標値に達しなかった。一方で、学力調査の結果について、1年から2年にかけての伸びには課題があるものの、2年から3年にかけての伸びは大きく飛躍している。その要因について分析するとともに、今後の学習指導に役立ててもらいたい。	A
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	76%	80%	77.3%	272名/352名	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点が全国平均（90点満点）の110%以上の割合	54%	60%	58.5%	159名/272名	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	アンケートによる生徒の評価（2年の発表を見た1年の満足度）	昨年度は探究活動に関して事前・事後の満足度について、その伸び率を調べた。15項目 事前平均67% 事後平均81%	情報収集能力およびプレゼンテーション能力向上したと感じる生徒の割合70%以上	58%		B	継続	課題研究活動における生徒アンケート結果によるプレゼン能力の向上等の満足度が低下している点は改善を図っていただきたい。コンクールやコンテストについても目標値を下回ったので、さらなる取組みの充実を期待する。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	府レベル以上のコンテスト出品数と入賞件数	全国9品4件 近畿17品11件 府78品35件	全国5件 近畿10件 府40件	入賞数 全国2件 近畿1件 府56件	北海道大学主催「海の宝コンテスト」全国準優勝	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	1 英検を利用した英語運用能力向上 2 英語集中講座の実施	1 ・1年準2級1次合格率89%、既取得者を含めると93% ・2年176名50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数23名（77%増）	1 ・1年準2級以上取得率60% ・2年2級以上取得率50% 2 ・英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数20名以上	1 2年2級以上取得率44% 2 参加者31名 満足度100%	1 1年生は未実施	B	継続	英語集中講座の参加生徒数が昨年度より増加しており、経年として増加傾向にあることは大変評価できる。英語資格の取得については、目標値を下回っており、改善策について検討が必要である。	AA	
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	48名	50名	57名		A	継続	全ての項目で目標値及び昨年度実績を上回ったことは大変評価できる。その要因を分析し、今後は目標値について更新することも検討を視野に、さらなる飛躍を期待する。また、能動的思考型への学習改善が今後実績として現れることを期待したい。	AA	
		㉒進学実績	進路希望達成率	75%	75%	78%		A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	142名	150名	157名		A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	1名		A	継続			
	総合評価			授業改善について、生徒や教員の振り返りを重要と位置づけ、PDCAサイクルの「C」と「A」を確実に回していることは特筆すべき取組みである。今後、指導力向上の取組みに教員が積極的に関与できるようなシステムを構築することにより、教員間での相互啓発による相乗効果が生まれるのではないかと期待したい。							A	

令和3年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 1 府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①基礎学力及び自学自習力の向上 ②読解力リテラシー育成 ③科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育む	①基礎学力及び自学自習力の向上	①隔週土曜授業の実施 ②三丘エクセレンス、三丘スタディーハートの充実 ③成績不振者講習の実施(1・2年生)	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数(実施教科)	・13回実施 ・23回、261回実施 ・84回実施	・10回 ・20回以上 ・年間60回以上	・10回 ・20回、279回実施 ・81回実施	②三丘エクセレンス 緊急事態宣言解除後開始	A	・アンケートや感想 ・1、2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合 ・補充講習への出席率	・70.2% ・1年49% ・2年59% ・100%	・肯定的意見60%以上 ・50%以上 ・100%	・68.3% ・1年70% ・2年60% ・100%		A	継続	校内外における課題研究発表会等でのプレゼンテーションの回数や発表回数が増加していることは大変評価できる。課題研究での学びが他の教科に広がり活性化されることを期待している。	A
			②読解力リテラシー育成	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導(1、2年全員)	・7回発行 ・1年7回、2年4回提出	・年間3回 ・学期提出 ・年間3回以上	・9回発行 ・1年8回、2年10回提出		A	・読書記録提出による自主読書量	・1年8作品 ・2年7作品	・1、2年 ・年間5作品以上	・1年18作品 ・2年10作品		A	継続		
			③科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育む	⑥「課題研究(CS研究)」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究Ⅰ・Ⅱの充実 ・校内外での発表会等でのプレゼン	・0回訪問 ・毎週継続実施 ・14回実施	・10回 ・毎週継続実施 ・の8年間10回	・0回訪問 ・21回実施	・中止 ・CSⅡ2回、SSH関係8回、SGH関係5回、その他6回	A	・「課題研究(CS探究)」の延べ発表回数 ・実施後のアンケートや感想	・94回 ・92%	・口頭及びポスター発表100回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・158回 ・92%		A	充実		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をたくむ	④英語運用能力の育成 ⑤違いを認め共に生きる力の育成(異文化・国際理解) ⑥違いを認め共に生きる力の育成(ボランティア活動・地域交流活動)	④英語運用能力の育成	⑧4技能統合型授業の実施 ⑨英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・1、2年 ・毎週実施 ・10回	・1、2年 ・毎週実施 ・10回	・1、2年 ・毎週実施 ・15回実施	・SSH3回、SGH3回、英検6回、オンライン3回	B	・アンケートや感想 ・各種4技能型英語外部テストの受験者数 ・特別レッスン参加者数	・82.2% ・実施せず ・70人	・肯定的意見80%以上 ・英検2級以上取得者100人以上 ・延べ70人	・82.3% ・318人 ・171人		A	継続	コロナ禍で思うように取組みができなかったが、代替プログラムの満足度が高い。英語に関して特別レッスンへの参加者数も大幅に増えており、次年度以降の海外研修で生徒の力が発揮できることを期待したい。	A
			⑤違いを認め共に生きる力の育成(異文化・国際理解)	⑩海外研修等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・海外研修参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・110人 ・0人	・100人 ・70人	・41人 ・6人	新型コロナウイルスにより、海外渡航が不可能なため、代替実施 ・リハ(大学)オンライン研修34人 ・テ・ラサール大学(フィリピン) オンライン交流	A	・アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	・肯定的評価95%	・肯定的評価90%以上	・肯定的評価100% ・肯定的評価100%		A	継続		
			⑥違いを認め共に生きる力の育成(ボランティア活動・地域交流活動)	⑫地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流(防災宿泊訓練含む)の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室の実施	・実施せず ・中止	・40人 ・のべ100人	・中止 ・中止	新型コロナウイルス感染症のためすべて中止	-	・アンケートや感想による生徒の評価(防災宿泊訓練・幼稚園ボランティア) ・アンケートや感想による参加者の評価(三国丘科学教室)	・実施せず ・中止	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見80%以上 ・参加者の増加	・中止 ・中止		A	継続		
	III. 高い志をたくみ、進路実現をめざす	⑦健康・体力・協調性と豊かな感性の育成 ⑧高い志を育み進路実現を果たす ⑨規範意識の醸成	⑦健康・体力・協調性と豊かな感性の育成	⑬部活動の振興 ⑭学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事(文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会)実施	・97.9% ・体育祭中止、文化祭無事故で実施	・95% ・内容充実	・95.3% ・体育祭、文化祭無事故で実施	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出場件数 ・アンケートや感想による生徒の評価	A	・3件 ・肯定的感想が大半	・5件 ・肯定的評価90%	・11件 ・肯定的感想が大半		A	継続	昨年度多かった遅刻件数が減少したことは評価できる。減少の要因として委員会の生徒が生徒に呼びかけを行う仕組みを運用できていることについては、学校運営に生徒が参加する好事例である。こうした仕掛けを他の取組にも活用できないかを検討してみようか。	A	
			⑧高い志を育み進路実現を果たす	⑮社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会の実施・充実 ⑯東京方面キャンパスツアーの実施 ⑰大学見学の実施 ⑱医療インターンシップの実施	・講座(講演)の開催回数 ・参加人数	・25回実施 ・中止 ・450人 ・0人	・25回 ・中止 ・50人	・26回実施 ・中止 ・中止	・三丘セミナー11回、進路関係15回	B	・アンケートや感想による生徒の評価	・190人 ・10人 ・中止	・150人以上(現役100人以上) ・10人以上 ・肯定的意見80%以上	・257人(現役192人) ・10人 ・肯定的感想が大半		A			継続
			⑨規範意識の醸成	⑲遅刻指導の徹底 ⑳朝のあいさつの奨励 ㉑リーダーズ研修の実施	・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・10回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間12回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・13回の実施	・ｽｰﾌﾟｰｰｸﾞｰｽﾞｷﾞｰ1回、救急法講習会1回、キャンプ会議11回	A	・1日1クラスあたりの遅刻人数	・0.56人(2,380件)	・0.5人未満	・0.53人(968件)		B			継続
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上 ⑪進路指導力向上 ⑫初任者・転入者に対する指導力向上支援	⑩授業力向上	⑲授業改善に向けた取り組み ⑳授業観察によるフィードバック ㉑授業者の授業改善の実施 ㉒公開研究授業及び研究協議の実施 ㉓アクティブラーニングやICT機器活用授業の研究 ㉔他校で実施される研究授業への積極的参加 ㉕民間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数	・1回全教員提出 ・授業観察全継続 ・今年度は実施せず ・今年度は実施せず ・今年度は実施せず ・研修センター実施の研修等に参加 ・他校や予備校等に24名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修4回 ・研修センター実施 ・研修センター実施の研修等に参加 ・他校や予備校等に13名参加	・2回全教員提出 ・全員フィードバック ・今年度は実施せず ・今年度は実施せず ・1回実施(他校見学実施講座10回) ・研修センター実施の研修に参加 ・他校や予備校等に13名参加	B	・授業アンケートによる授業満足度	・93.2%	・80%以上	・91.4%		A	継続	進学実績の飛躍は大いに評価できる。教員の粘り強い指導が結果につながったのではないかと、飛躍の要因について分析し、次年度にも生かしてもらいたい。	A	
			⑪進路指導力向上	⑳新旧3年担任を中心とした進学指導研修の実施 ㉑各学年業者模試実施後の研修実施 ㉒センター試験分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・1回実施 ・8回実施 ・1回実施	・年間1回 ・年間3回 ・年間1回	・1回実施 ・8回実施 ・1回実施	・スタサボ3回、1年1回、2年2回、3年2回	A	・難関国立大学(10大学)への進学者数(東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大) ・大学医学部医学部進学人数	・190人 ・10人	・150人以上(現役100人以上) ・10人以上	・257人(現役192人) ・10人		A			継続
			⑫初任者・転入者に対する指導力向上支援	㉓校内研修の実施	・研修実施回数	・4回実施	・10回	・14回実施	・大学説明会2回、新着任研修1回、ITC研修3回、三究会5回、CS研修3回など	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	-1.20%	・授業アンケート肯定的回答率1%以上の向上	0.6%の向上		B			継続
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	①課題研究発表会の公開 ②理系クラブの他校との交流会	実施回数		①1回以上 ②1回以上	①1回 ②中止	①(校内)生徒研究発表会	-	参加満足度(4段階)	-	-	-	-	-	-	継続	オンラインを活用し課題研究指導に関して情報交換を実施し、プレインストーミングやマインドマップを活用した指導法など、これからの探究活動を充実させようとする他校の教員にとって、参考になるような内容で実施したことは大変評価できる。引き続き、取組みを継続するとともに、さらなる充実を図っていただきたい。	A
		⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	①課題研究授業の公開 ②課題研究指導の研修および情報交流会	実施回数		①1回以上 ②1回以上	①中止 ②2回	②府立高校教員向けオンライン研修2回	-	参加満足度(4段階)	-	-	3.8	-	-	-	継続		

令和3年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立三国丘高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は目標値及び昨年度実績を上回っており、大変評価できる。学力調査の結果についても、昨年度と比較すると、1年から2年、2年から3年両方とも、昨年度と比較すると伸長がみられ、改善されている。今後も継続して学習指導、進路指導の充実を図ってほしい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	・92.1%	85%	・93%		A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	・26.8%	30%	・8.9%	共通テストの難化により本校の得点率も低下した（得点率7割5分の場合：24.3%、7割3分の場合：34.6%）	B	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	校外での研究発表グループ数	26グループ	30グループ	・のべ21グループ	・SSH4班、SGH12班、WWL3班、GLHS1班、その他1班	B	継続	SSH・SGHの研究指定の実績を活かしながら課題研究を進めている。生徒の気づきを大切にしている。三国丘高校ならではの課題研究がコンクール・コンテスト等の受賞者数の向上につながっている。引き続き、充実に努めてほしい。	AA	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	・8人	30人	・のべ31人	・SSH12人、SGH28人、その他1名	A	継続			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英検2級以上取得者数	・139人	100人以上	・318人		A	継続	英検2級以上の所得者数は大幅に増加しており、大変評価できる。在学中にさらに高いレベルの資格にチャレンジするなど、さらなる意欲の向上に向けた取組みに期待する。	AA	
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	・122人	90人	・121人		A	継続	難関国公立大学等の合格者数、国公立大学現役進学者数が目標値及び昨年度実績を大きく上回っており、大変評価できる。また、コロナ禍で海外交流が難しい中、海外大学進学者が3名であったことも評価できる。国内や校内での積極的な代替プログラムの実施等が要因となっているのではないか。今後も継続して教科指導・進路指導の充実を図ってほしい。	AAA	
		㉒進学実績	難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科）の全合格者数（現役・浪人）	・165人	120人	・200人		A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	・182人	140人	・198人		A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	・2人	1人	・3人		A	継続			
	総合評価			課題研究の指導について、全校での取組みになるようチャレンジされているとともに、質的向上のために努力されている点は高い評価に値する。今後は生徒に課題研究の意義を伝え、教科の学びとつながっているという経験を重ねられるようにファシリテートされると、さらなる成果を挙げることができるとは思わないか。							AA	

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①・言語活用能力 ・英語運用能力 小項目（はくくみたいか） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	英語運用能力とコミュニケーション能力の育成 ①GLHS（グローバルリーダー）養成7月7日国内版基礎の実施②GLHS養成7月7日国内版発展の実施③GLHS養成7月7日海外版の実施	・参加者数	-	①2100名以上 ③10名以上	①110名 ②6名 ③8名	①8月に4日間実施 ②3月に他校と合同で実施 ③10校合同で実施	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「英語研修プログラムに満足していますか。」	-	90%以上	①99%	①「7/07」み全体への満足度は100%、「英語でのコミュニケーションに自信」は100%、「英語をもって勉強したい」は96%達成。	A	継続	基礎学力も含めて学力の向上にかかると取組は、教員全体で充実し、岸和田高校の生徒のニーズにこたえることができている。今後、成果と課題を併に見極めながら、さらなる取組の充実を期待したい。	A
			継続	自学自習の習慣の育成プロジェクト ①土曜講習（特進ゼミ）・サポート講習（成績不振者）等 ②土曜午前の学習への取組支援「1年11月」講習 ③土曜午後を中心に、ゆかりホールでの自習	①開講回数 ②参加生徒の数 ③のべ利用生徒数	①土曜等、夏期計267回 ②80名 ③444名	①300回 ②80名 ③800名	①488回 ②80名 ③991名	①生徒の希望に基づき、感染防止策をとって実施。オンライン等により実施の講座もあり。②希望者161名から選考により80名を決定。③一昨年から減っているものの、昨年から大幅増。アクリル板設置など感染症対策をとって開催。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「講習や午後のゼミなど、土曜日の午前には充実した学習時間を過ごしている。」	58.6%	55%以上	53.1%	1年生の「ハイレベル講習」、3年生の「海外研修」を行ったが、2年生の土曜日の活用が低かった。	C	継続		
			継続	新たな大学入試で求められる力を育成 ①スーパークラスの設置による学校全体の学習意欲の向上②「岸和田学びのスタイル」で学年・教科の授業到達目標を設定③朝読タイムの実施④「岸高手帳」でのポートフォリオ作成と振り返り	①参加生徒数 ②目標設定・進捗・振り返りの3回の教科会議 ③1週当たりの時間数 ④取組み生徒数	①2・3年各80名 ②3回 ③75分 ④950名	①2・3年各80名 ②3回 ③75分 ④960名	①2・3年各80名 ②3回 ③75分 ④952名	①昨年に引き続き、考查や模試等で成果を上げていく。今春の卒業生の進路結果からも一定の成果が出ている。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「海外研修やSSH関連行事など他校にはない活動が準備されている」	96.2%	90%以上	95.1%	実施できなかった行事もあったものの、本校の特色ある活動が生徒にも評価されている。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくくむ	④・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 小項目（はくくみたいか） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・協働性 ・協働性 ・協働性 ・健康・体力 ・その他	継続	①ドイツの高校生とのホームステイによる相互交流(11月) ②台湾での姉妹校との鳥類の協働調査(12月)(代替案)①海外からの留学生との交流。②国内での鳥類の調査。	①パティ人数 ②参加人数	①6名 ②7名	①10名 ②5名	①10月30日に実施 ②7/30和泉葛城山フィールドワーク、9/20岬町長松海フィールドワーク、12/18岸和田再開発地区石塚探検フィールドワーク実施。 ②/28-3/2屋久島で実施。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「海外研修はいかがでしたか」	100%	90%以上	90%以上	昨年に引き続き「日本文化体験プログラム」を実施した。本校より8名、近畿大学の留学生15名参加した。アンケートでは、「(非)非に良かった。」と全員が回答した。台湾姉妹校とのオンライン交流は大変充実したものであった。国内のフィールドワークの参加者の満足度も大変高かった。	A	継続	協調性・共感性を育むためのさまざまな角度からの豊富な取組は評価に値する。また、取組みにあたっては地域資源も効果的に活用できている。今後、取組みの成果については、是非他校にも発信し、ノウハウを共有してもらいたい。	A	
			継続	地域との交流による学びと社会貢献①岸城幼稚園との1年を通しての授業での交流 ②岸高祭や学校説明会の生徒主体の運営 ③海外からの訪問の受け入れ	①参加生徒数 ②岸高祭や学校説明会の参加クラブ数 ③団体数	①319名 ②13クラブ ③中止	①320名 ②13クラブ ③-	①317名 ②21クラブ ③-	①保育体験は2学期、共同避難訓練は3学期に実施。②岸高祭は時間短縮をして実施。21クラブ。学校説明会は在校生不参加（感染防止のため）。クラブ見学のみ実施。③未実施。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「学校交流はいかがでしたか」	-	90%以上	90%以上	①の保育体験は2、3学期に実施。②の岸高祭はコロナ禍のため日程を急遽変更したものの、無観客で2日間開催。③の留学生との交流に参加した生徒は全員が「よかった」と回答。	A			継続
			継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実 ①クラブ活動の活性化 ②体育祭の実施 ③クラブリーダー研修の実施 ④コミュニケーション実践講座の実施	①クラブ加入率 ②体育祭参加率 ③実施回数 ④参加人数	①98% ②99% ③- ④320名	①95% ②95% ③2回 ④320名	①81% ②99% ③2回 ④320名	①集計方法の変更（のべ人数から実人数） ②無観客・時間短縮 ③2回目は3月実施予定 ④9月29日に実施	A	アンケート感想によるクラブ満足度 「クラブ活動に熱心に参加している。」「行事満足度（肯定的な意見）」 「学校行事に楽しく参加している。」	①93.4% ②86.9%	80%以上	①91.4% ②87.6%	制約のある活動も多かったが、その中で生徒なりに工夫をして活動を行い、昨年同様の結果を得た。クラブリーダー研修の参加者も多く、コミュニケーション講座は好評だった。	A			継続
	III. 高い志をはくくみ、進路実現をめざす	⑦・高い志での進路実現 小項目（はくくみたいか） ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	高い志でのキャリア構想 ①PT（東大京大等難関大学向け講座）の実施 ②京大・阪大キャンパスツアーへの参加促進	①実施回数 ②のべ参加人数	①80回 ②85名	①75回 ②80名	①80回 ②88名	①希望生徒は各教科による添削指導等を受講。定期考査や模試等で成果をあげ、その学習姿勢は他の生徒の模範になっている。	A	アンケートによる生徒の評価（肯定的な意見） 「将来の進路や職業などについて、講演会や説明会を実施するなど適切な指導を行っている」	92.9%	80%以上	95.4%	3年生の講習や添削指導は2月まで続く。3月の後期試験まで粘り強く指導する。	A	継続	高い志を維持するための粘り強い指導は、今後も継続していただきたい。一方、行事への参加については、行事への参加の意義や目的を生徒と教員が共有し、生徒が主体的に行事を企画するような仕組み作りなどを検討してはどうか。	A
			継続	自他の気持ちを尊重する心の涵養と規律規範の確立 ①合唱コンクール(1年2年)芸能祭演劇(3年) ②生徒による朝の挨拶運動の実施 ③校外登校マナー指導の実施	①参加クラス数 ②実施回数	①167クラス 芸能祭中止 ②20回 ③85回	①167クラス 87クラス ②23回 ③80回	①16クラス 8クラス ②30回 ③80回	①合唱コンクールをモザイクアートコンテストに変更。 ②23回実施 ③全教員10日 生徒指導係15日 部長5日	A	アンケートや感想による①生徒「文化祭などの学校行事に楽しく参加している」 ②保護者の評価（肯定的な意見）「社会人としてのモラルを守る生徒を育てようとしている。」	①86.9% ②83.3%	①85%以上 ②80%以上	①87.6% ②82.1%	2年連続で合唱コンクールの代替を企画したが、生徒・教員共に苦労した。自治会の生徒中心にできる限りの努力をした。	B	継続		
			継続	グローバルな視野の養成 ①サイエンスツアーの実施 ②姉妹校との台湾フィールドワークの実施(代替案) ②国内フィールドワークの実施	①のべ参加人数 ②参加人数	①- ②7名	①20名 ②5名	①10名 ②12名 ③18名	①2/28-3/2屋久島。 ②7/30和泉葛城山フィールドワーク、9/20岬町長松海フィールドワーク実施	A	アンケートや感想による満足度（肯定的な意見） 「今回のプログラムはいかがでしたか。」	100%	90%以上	90%以上	①事前・事後指導ともに、生徒は積極的に活動にとり組み、満足度も高かった。②のフィールドワーク満足度が高かった。	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩・授業力向上 小項目（はくくみたいか） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	①公開授業週間の設定 ②生徒による授業評価実施 ③ICT機器の活用とAI型授業の導入 ④AI型授業実践&研究協議研修の実施	①教科毎に1週間 ②実施回数 ③活用教員数 ④実施回数	①教科毎に1週間 ②2回 ③64名 ④2回	①教科毎に1週間 ②2回 ③60名 ④2回	①教科ごとに1週間 ②2回 ③60名 ④2回	①全教科設定。今年度「授業力向上チーム」が発足し、これまで以上に相互見学が活性化。項目9	A	授業満足度（授業アンケート） 「授業に満足している。」項目3～7、「知識や技能が身についた」項目9	・3.45 ・3.38	・3.2以上 ・3.2以上	・3.38 ・3.28	前年度より若干低くなったが、高い数値を保っている。	B	継続		
			継続	①2年文理課題研究発表会の実施 ②3年キャリアスタートゼミでの論文作成 ③1年ゼレンデビティ（課題研究基礎）ノートの作成 ④ルーブリック評価の作成	①発表本数・口頭発表本数・ポスター発表数 ②論文本数 ③プリント教材の枚数 ④生徒への提示回数	①口頭発表60本、ポスター119本 ②152本 ③20枚 ④43回	①口頭発表60本、ポスター100本 ②150本 ③20枚 ④43回	①口頭発表78本、ポスター111本 ②179本 ③18枚 ④43回	①新型コロナウイルス感染拡大の影響により中間発表会は規模を縮小して実施し、最終発表会は通常通り実施できた。②3年生文理学科理科の生徒全員。	A	文理課題研究発表会などの発表や課題研究のアンケートでの肯定的な意見	80%以上	75%以上	約70%	調査方法・学習意欲・基礎的意識・観察力・分析力・課題設定力・課題解決力・表現力という項目において調査を実施。ほとんどの項目で70%を超え、なかには分析力については80%以上が肯定的な意見となった。	B	継続	ICT支援授業や公開授業・研究発表による授業力向上の取組を学校全体で取組んでいることが大変評価できる。今後も取組みの継続によりさらなる発展を期待したい。	A
			継続	①経験の浅い教員向け校内研修の実施 ②経験10年目の教員の企画による初任者と経験2年以上の教員の交流研修の実施 ③模試分析会で教科別グループワーク実施。現状の課題と今後の授業内容検討	①②③実施の回数	①年間9回 ②年間2回 ③7回 ④2回中止	①12回 ②1回 ③9回	①12回 ②1回 ③9回	①初任者と10年目の教員が様々なテーマで活発に交流ができた。②10年目教員が中心となりグループワークを用いた研修を全教員を対象に行なった。③模試分析会ではグループワークをとる時間があまりなかった。	A	アンケートや感想による教員の評価 「本研修で知識は広がり、授業アンケート 「授業計画項目4・「毎時間授業の目標や大切なポイント」を説明してくれる」	・100% ・3.48	・95%以上 ・3.3以上	・100% ・3.39	研修では若手教員からの発展的な提案も見られた。授業アンケートは1、2項目とも目標を達成している。	A	継続		
新規	①GLHS校以外の生徒の資質向上	①課題研究発表会 ②他校科学部との交流	①参加学校数及び生徒数 ②実施回数	-	①2校6名 ②2回	①1校4名 ②0回	①9月9日・10日に実施された課題研究中間発表会では、新型コロナウイルス感染拡大のため、規模を縮小し、外部の参加は不可とした。1月29日の最終発表会では4名の生徒が参加し、「換気方法と室温の変化に関する研究」を発表し、互いに質疑・応答することで、理解を深めた。	-	参加満足度（4段階）	-	-	4.0	地域拠点としての取組み初年度にあって、近畿高校を招いて「総合的探究の時間」の意見交換会を企画・実施できたことは、他校への探究活動のノウハウの普及の観点から、非常に効果的で評価できる。次年度以降も継続的に実施し、地域の探究活動の拠点校として活躍を期待する。	-	継続				
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑭・GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	教員研修	参加学校数及び教員数	-	3校6名	7校7名	12/7 第1回「総合的な探究の時間」意見交換会～泉州の探究を考える会～として、探究学習に関する情報交換会を実施。7校7名の教員が来校し、本校の教員と探究活動に関する悩みや工夫等の情報交換を行った。	-	参加満足度（4段階）	-	-	4.0		-	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								共通テスト5教科7科目受験者の割合が昨年度に引き続き、目標値を下回った。学力調査においても、1年から2年、2年から3年の両方とも伸ばしきれていない結果となっている。それぞれ要因について分析し改善に努められたい。	B
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	221名 71.1%	240名 75%	223名 70.3%	大学入学共通テスト時点での在籍者数317名に対し、大学入学共通テストの5教科7科目受験者は223名であった。	B	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テストの5教科7科目の得点率80%以上の受験者数（割合）	32名 10.2%	40名 12.8%	3名 1.3%	大学入学共通テスト時点での在籍者数317名に対し、大学入学共通テストの5教科7科目の得点率80%以上の受験者数は3名であった。	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリックを用いた観点別評価を行い、研究活動の質の向上と、適正な評価を行う。	100%	80%以上	100%	すべての項目でループリックを用いた評価を実施。	A	継続	ループリック評価の研究は、探究活動の充実の観点からは、非常に重要であり、評価できる。評価項目について常に見直しを図りながら、評価を活用した探究活動の充実を期待する。	A		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者人数	132名	100名	135名	国税庁主催「税に関する高校生の作文」コンクールに94名が応募。うち2名が岸和田税務署長賞を、1名が岸和田貝塚租税教育推進協議会長賞を受賞。課題研究の成果を用いたコンクール・コンテストの参加人数は37名。科学オリンピックに参加した人数は4名であった。	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験（G-TEC,英検）の目標達成割合	・「A2」98% ・準2級81%、 2級62%、 準1級28%	・CEFR「A2」以上85% ・英検受験者中準2級80%以上、2級60%以上合格	・「A2」以上98% ・準2級92% 2級63% 準1級6%	・1、2年生が12月にGTEC4技能型を受験。624名中613名がA2以上のスコアを獲得した。 ・英検（希望者受験）は、準1級を18名中1名、2級を79名中50名、準2級を26名中24名が受験し合格した。2級、準2級の設定目標は上回ったが、準1級の合格者は1名にとどまり前年を下回った。	A	継続	在学中に英検にチャレンジする一定数の生徒がいることは評価できる。今後もより高い英語運用能力を身に付けられるよう、資格取得を含め働きかけを行ってほしい。	AA		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	35名	40名 12.8%	42名	東北2名、京都2名、大阪16名、広島1名、神戸13名、岡山6名、早稲田1名、慶応1名	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が目標値及び昨年度実績を上回っており、評価できる。国公立大学現役進学者数も安定した実績を残している。スーパークラスの効果等を検証し、さらなる飛躍を期待する。	A		
		㉒進学実績	国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	230名	220名	230名	下記の国公立に加え、私立大で早稲田1名、同志社大11名、立命館大5名、関西大44名、関西学院大21名、私立薬学部11名など	A	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	134名	130名	130名	東北2名、大阪15名、神戸9名、広島1名、大阪公立36名など	A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名以上	1名	King's College London 1名	A	継続				
	総合評価			ICT支援チームによるICT機器活用促進のための取組みや公開授業・研究授業による授業力向上のための取組みを学校全体で行っていることが評価できる。また、生徒の自主性を育成するため、生徒にさまざまな学習の場を提供していることも評価できる。今後の更なる発展を期待したい。							A		